

第2回宇治市産業戦略策定会議（要旨）

日 時	平成 30 年 10 月 12 日（金） 17:00～19:00
場 所	宇治市産業振興センター
出席委員	伊多波良雄（会長）、白須正（副会長）、有馬透、岡本圭司、川勝健志、小嶋秀和、多田重光、中川晴雄、中林和夫、西谷剛毅、森下康弘 計 11 名
議事要旨	<p>1．開 会</p> <p>2．会長挨拶</p> <p>3．議 事</p> <p>（1）宇治市産業の特徴と課題について【資料 1、資料 2】</p> <p>（委 員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまではお茶・観光が中心となっており、製造業が表に出ていない印象だった。地域経済を支える産業として、製造業を育てていく必要性を感じている。 ・ これだけ製造業が集積しているのは都市周辺等に限られ、本市の強みである。 ・ しかし、既存企業の多くは用地問題を抱えている。周辺に住宅が建つなど生産活動の制約も大きく、規模を拡大する際に市外へ出て行くことも考えざるを得ないが、できれば市内に残りたい、市内で用地がほしいという企業の意見も多い。早急な対応が必要であり、大きな課題として取り上げて欲しい。 ・ 今は企業連携やオープンイノベーションは企業の発展のために不可欠なものであり、製造業が集まって交流を深める機会や企業連携に向けたマッチングの取組を強化してはどうか。そのために宇治市産業振興センターの活用も重要である。セミナーを開催して人脈を築くとか、市内企業のPRなどセンターに期待する声もあったので、気軽に集まれるよう工夫してほしい。 ・ 土地利用の関係はこの戦略会議から除くということか。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工業用地に関しては、市内にまとまった土地が取れるかどうか、取れるとしたらどのような開発手法があるか等を調査しているところであり、その調査を受けて具体的に検討していきたい。ただし、工業用地が必要という意見があれば、戦略に加えていきたい。

(委員)

- ・土地利用に関しては、農地は一番利用されやすいがお茶はその地でしかできないものであり、性急にと転用されたら困る。宇治茶はブランドとして認められているが、茶畑が宅地に変わってきているなど問題もある。巨椋池という広い場所は台風や水害のときに水を貯める機能もあり、マイナスではない。米や茶は生産額では多くないが、安易な用途転換は考えたくない。

(委員)

- ・土地利用に関しては別途行われている土地利用可能性調査が終わってから検討するということが、現在すでに用途地域があるため、苦しんでいる企業に対する施策はどうするのか。

(事務局)

- ・用途により操業に苦労されていることは受け止めており、産業戦略の中でそのことも方向性に盛り込む。具体的には次回の会議において具体的にどう取り込むのか書いていきたい。

(委員)

- ・工業に関する特徴をみると、堅調な製造業が集積とあるが、今後製造業が凋落するというシナリオは想定しているのか。今後凋落する可能性もある、という危機感をもって考えているのか。

(事務局)

- ・現状既に製造品出荷額はピーク時と比べ半減している。簡単には増加しないだろう。アンケートからも変化しなければならない、という危機感が感じられる。だからこそ新商品の開発や生産性の向上に注力しなければいけない、という意見が挙がっており、そのための支援を行う必要があると考えている。

(委員)

- ・工業に関する特徴と課題は、強い部門としてその他製造と電子部品があるが、これは大手2社の出荷額が飛び抜けて大きい。それをもって、製造業の稼ぐ力が強いと言うのは、違和感があると言うか、疑問が残る。

	<ul style="list-style-type: none">・また、「高い技術力を持ち、短納期・小ロットの要請に強い企業が多い」に記載されている「地域未来牽引企業」の2社も他市から移ってきた企業であり、地元の地場の企業と言えないのではないかと。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・強い企業が何社か存在し製造業は大きな比重を占めているものの、製造業全体ではピーク時の半分であり、産業全体を考える場合はバランスが重要。・また、稼ぐ力と域内循環力の2点から考えなければならない。工業や観光業は稼ぐ力がある。・これまではお茶・観光が前面に出ていたが、これからは製造業も含めて考える必要がある。1次産業のお茶、2次産業の製造業、3次産業の観光業がバランスしているのが宇治市であり、そのバランスの中で新たな工業用地の必要性を検討するべきである。 <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none">・商業ほど付加価値額を生まないが、教育、医療・福祉業も従業者・雇用の確保の視点では相当大きな産業。したがって、他の産業とのバランスの中に取り入れて良いのではないかと。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・情報や何かのきっかけで農業や町工場が生まれ変わったり、儲かる事業に変身する可能性がある。宇治市から出て行った子供たちが戻ってくるができるキャパシティを残しておくことも重要ではないかと。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・製造業の未来をどう描くかが重要だと認識している。産業構造が大きく転換する中、製造業の地位は低下して行く。よって、量的な拡大ではなく、今後は質的な拡大、すなわち非価格競争力に価値を移行すべき。質の向上に寄与するデザイン力、企画力、ブランド力と言ったものを高めることが課題。そのために、いかにして質的な向上を支援するかがポイントとなる。どのような未来を描いて、どのような用地を求めているのかによって必要な用地も変わってくるだろう。
--	---

	<ul style="list-style-type: none">・工業用地の不足を弱みなのか、むしろ 1 次産業に適しているとみる視点もある。このように、各人の考え方は様々であるが、公共政策である以上、市民が望んでいるかどうか、という部分が重要だと考える。 <p>(2) 宇治市産業戦略の目標と方向性について【資料 3】</p> <p>(委 員)</p> <ul style="list-style-type: none">・第 1 回の発言の趣旨は、市内企業の生の声・実情を聴いてほしいという旨だった。アンケートを実施していただき、対応していただいたと感じている。・一方で、アンケートで得た結果と戦略の方向性の間には乖離を感じている。・産業戦略、特に工業用地に関しては、街づくりの視点も重要になる。産業戦略の柱になる部分ではないだろうか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none">・十分にアンケート結果を活かしきれているか、というと不十分だと認識している。企業誘致に関しても、今までのような企業誘致で良いのか、という疑問がある。アンケート結果にも、ものを作る企業ではなく、何を作るかを考えられる企業を誘致すべきだ、という声もあった。・全ての産業を考える際、今のままの農政を守る、ということではない。第 6 次産業化などサービス・飲食・製造業等と農業を組み合わせる宇治市ならではの農業発展を目指す、という方向性が必要。用地がない、という根本的な問題は避けては産業が成り立たないと考えており、新たな用地が無ければ用途転換もあり得る。・街づくりの視点から考えた際には、若者が働きたい、住み続けたいと考える地域の維持や創出に繋がる産業戦略を考える必要がある。・地区によって土地問題は様々であり、事務手続きの煩雑さを指摘する意見もあり、改善を検討する。・現状、市内に立地している大企業も宇治市の中では重要である。マッチング等、何か一緒にできないことがないか、ということも考えられる。・産業戦略は、10 年、30 年、50 年先を考えて取り組む、今、実行すべきことの指針と考える。
--	---

(会 長)

- ・街づくりの視点は重要である。産業戦略は宇治市全体の姿と密接な関係にある。

(委 員)

- ・戦略の方向性「新たな産業の創出」に関しては確かに重要だが、既存企業の成長が最も重要である。ベンチャー育成工場から巣立った後、市内に事業所を構えた企業は 1 社しかいないのは、もったいないと感じる。既存企業が発展するときに用地の制約があればそれを受け止めるためには、一定の用地は必要になる。
- ・企業誘致に関しては、宇治市単体ではなく、京都市圏で考えるべきだろう。大量生産の企業を誘致するのではなく、研究開発型の企業を誘致すべき。また、市内の大手企業や市内の大学研究所との連携による研究開発型企業の誘致、という方向性も考えられる。
- ・商業に関しては、サービス業（特に医療・福祉）は近年伸びている。市民向けサービスだが、高度化を支援することで、市外からの稼ぐ力を向上させる、という方向性も考えられらる。

(委 員)

- ・茶業は域内唯一の地場産業だろう。故にそれぞれが様々な成長戦略をとっている。通り一遍のものを大量につくるだけの企業には、宇治市の地価は高すぎるため立地は難しいのではないか。
- ・観光や健康などを絡めたような違う分野の付加価値を加えることが必要であり、農業でも同じだが、宇治市では広い土地面積を持っている他府県の茶農家に対する優位性はない。
- ・量的ではない質的な部分でもう少し細かく案を出して考えた上で、戦略の方向性に再構成するやり方も考えられる

(委 員)

- ・農業に関して、お茶は残して、他を犠牲にするということは違うのではないか。

(事務局)

- ・土地が必要な企業があるにもかかわらず、用地転換もせずに放っておくことはおかしい、という意味で言った。しかし、今のままの農業を進めるのではなく、消費地・大都市圏に近いという点を活かした農業を求めている。消費地に近い農政のあり方等の工夫を産業政策に盛り込みたい。

(委員)

- ・ニッチトップ型の企業が多いなど、宇治市におけるものづくりの素晴らしさは依然として変わらないと思う。
- ・先の指摘と同じくアンケート結果と戦略の方向性に乖離があるように見える。
- ・用地の確保や企業誘致ということが本当に製造業にとって良いことなのか。既存企業の強みがある訳で、それを活かしていく事が重要。デザイン力や企画力、ブランド力という非価格競争力を高めていくという形の支援もある。交通の便が悪いという意見もあったが、交通の利便性を高めていくという支援もある。
- ・異業種の人と交流できるようなコワーキングスペースや共通のオフィスなども良い。異業種の人と交流することでイノベーションが生まれるので、ハード面や金銭面だけの支援だけでなく、ソフト面での支援が必要である。
- ・また、「企業誘致」という言葉は使わない方が良いのではないかと。土地の取得や減税などの先行投資であり、宇治市の投資余力にも疑問がある。魅力あるものづくりや生活の環境を整えることの結果として優良な人達や良い企業が来るということであり、「企業誘致」自体を目的にするのはやめた方がよい。また、3年の期間でやれることは少ないので、長いスパンで方向性を考えることも大事。
- ・アンケートの結果からは、宇治市の交通の便には、メリット・デメリット共にある。そのため、産業政策単体では難しく、交通政策と共に考える必要がある。

(会長)

- ・アンケート結果と戦略の方向性の乖離は、交通面に関するものもあるだろう。また、販路の開拓や後継者問題も多く挙がっている。

	<ul style="list-style-type: none">・アンケート結果と戦略の方向性の乖離を委員が感じた理由としては、戦略の方向性の項目の少なさに起因していると感じる。次回の会議ではアンケート調査の結果と関連付けるような形でもう少し具体的な事業をまとめてはどうか。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・お茶と観光を中心に、宇治市の中心部が総取りしているような印象を持つ。観光客が宇治市内のいろいろなところを見て回る観光マップなどは考えているか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none">・アクションプランの中で周遊プランの作成を検討している。しかし、お客様が望まない限り周遊プランは作れない現状がある。まずは情報発信を進め、違う切り口で回ってもらえるように観光振興計画アクションプランで実行し始めている。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・戦略の方向性の既存企業の進化・発展に関して、生産性の向上や付加価値の増加は、既にみんなもやっていること。既存企業の声に耳を傾けていくということが今回挙がっていないことが残念である。・用地に関しては、新たな土地を探している、という点だけでなく、既存の用地に関する規制の厳しさへの対処も議論してほしい。製造業が市内生産額の3割を占めているのであれば、より仕事しやすい環境をつくっていくことも大事ではないか。 <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none">・何を持ってバランスを取るか、という点を考える必要がある。付加価値に重点を置くと必ずしも雇用者のためにはならないという一面もある。雇用力と付加価値力の2次元でバランスを考えるべきだろう。・製造業は衰退してきているという現状があり、まちづくり全体で考えることもある。企業に来てもらうにはブランドの構築にもつながり、バランスの中身を整理して方向性を考えてはどうか。・交通などの街づくりの面も産業戦略と密接な関係にある。
--	---

(委員)

- ・用地の制約に関する意見が多いが、なぜそうなってしまったのか、現場の声を聞き、実態を把握、調査する必要がある。新しい用地が必要という声があることも事実であり、どのように操業し、どのような製品を生み出していこうとしているのか聞いた上で、新たな用地を確保する以外の選択肢が出てくる可能性がある。

(委員)

- ・アンケートの中身を再整理し、方向性に反映させていく必要がある。

(会長)

- ・現実を見ながら他方では、宇治市の産業戦略のコンセプトをきちんと立てて、委員にも分かるような形で示してもらったらどうか。

以上